

安全・安心な市民生活の確保

1	下水道施設の改築・修繕	施策評価	A
取り組みの方向性	<p>●下水道施設の老朽化による道路陥没や排水不良など、市民生活へ重大な影響を及ぼさないよう、維持修繕基準に基づき日常的な維持管理及び、計画的な下水道施設の点検・調査や改築・修繕などの老朽化対策を進めます。また、雨天時浸入水などを原因とする降雨時の汚水量増加の問題について、その対策に取り組みます。</p>	評価理由	<p>ポンプ棟（建築物）の改築・修繕の実施時期を延期しましたが、その他取り組みは、指標（評価）等からおおむね順調に取組が実施されているため、評価を「A」としました。</p>

指標

指標名	R3年度末 (基準)	前々年度 実績値	前年度 実績値	R5年度 実績値	目標値 (R10)	評価	説明
1-(1) ポンプ設備整備実施率 (%) (雨水)	14.6	14.6	16.7	16.7	29.2	4	整備対応ポンプ設備数/雨水ポンプ場のポンプ設備数×100
1-(2) 管路調査点検実施率 (%) (汚水)	48.0	48.0	94.0	100.0	100.0	4	調査点検の実施延長/ストックマネジメント計画(短期計画)の延長×100
1-(3) ポンプ棟(建築物)の改築・修繕実施率 (%) (雨水・汚水)	6.7	6.7	6.7	6.7	73.3	3	改築・修繕実施数/雨水・汚水ポンプ棟の総数×100
(指標評価 平均値)						4	

具体的取組

	取組内容	R5年度 目標	前々年度	前年度	達成状況
		R5年度 実績			
1-①	下水道施設の点検・調査結果等に応じて下水道ストックマネジメント計画を修正します。(雨水・汚水)	点検・調査の結果にあわせて、対策工事等の計画を追記修正します。 下水道ストックマネジメント計画(その2)を策定し、下水道施設の点検・調査結果にあわせて対策工事等の計画を反映させました。	-	4	4
1-②	下水道ストックマネジメント計画に基づく雨水ポンプ場のポンプ設備の整備に取り組みます。	北部ポンプ場7号ポンプ設備の分解整備を行います。(R5、R6 2カ年) 北部ポンプ場7号ポンプおよび黒田川第一ポンプ場3号ポンプ設備の分解整備を開始しました。(R5・R6の2カ年事業のため、R6年度整備完了予定。R5年度末出来高：北部ポンプ場7号ポンプ36.0%、黒田川第一ポンプ場3号ポンプ9.0%) R5年度末の累積実績で、48台中8台完了となりました。(実施率：16.7%) (R5年度目標：16.7%)	-	4	4
1-③	下水道長寿命化計画に基づく汚水管路の改築に取り組みます。	茄子作北町地区において、管路改築工事を行います。 茄子作北町地区において、管路改築工事を行い、繰越しましたが、R6年6月完成に向け工事を進めています。	-	4	3

1-④	下水道ストックマネジメント計画に基づく汚水管路の計画的な点検、調査に取り組みます。	新町2丁目他地区において、点検約124km、調査約1.2kmに取り組みます。 新町地区他において、点検119.2km、調査1.24kmに取り組みました。	-	4	4
1-⑤	下水道ストックマネジメント計画に基づく下水道施設（污水）の計画的な改築に取り組みます。	楠葉地区において、約500mの管更生工事を行います。 楠葉地区において、508.9mの管更生工事を行いました。	-	4	4
1-⑥	下水道施設（雨水）の維持管理による機能維持と浸水の防除に取り組みます。	週1回、雨水大ポンプ場（全7カ所）の点検を実施します。 雨水大ポンプ場の点検を週1回（毎週火曜日を基本）実施しました。	-	4	4
1-⑦	下水道ストックマネジメント計画に基づく雨水・污水ポンプ棟（建築物）の改築・修繕に取り組みます。	溝谷川ポンプ場（RC造・S造）2施設の老朽化対策工事を実施します。 溝谷川ポンプ場（2施設）の老朽化対策工事を発注しましたが、2度の入札不調によりR6年度まで工期を順延しました。（R5年度末出来高：51%） R5年度末時点で、雨水・污水ポンプ棟全15棟中、対策が必要なポンプ棟は14棟となります。（実施率：6.7%）（R5年度目標：20.0%）	-	3	3
（具体的取組達成状況 平均値）					4

今後の方向性

今後も引き続き取り組んでいきます。

安全・安心な市民生活の確保

2	下水道施設の耐震化	施策評価	B
取り組みの方向性	<p>●地震時も下水道の機能が確保できるよう、被災による影響が大きい緊急輸送路などに埋設されている管渠や軌道・河川を横断している管渠及びポンプ場などの重要な施設から計画的に耐震化を進めます。</p>	<p>評価理由</p> <p>汚水管路においては目標どおり耐震化工事を行いました。一方で、雨水ポンプ場の耐震化工事、及び、一部の耐震診断において課題が生じ更なる検討が必要となったため、遅れが生じました。そのため、評価を「B」としました。</p>	

指標

指標名	R3年度末(基準)	前々年度実績値	前年度実績値	R5年度実績値	目標値(R10)	評価	説明
2-(1) ポンプ場の耐震化率(%) (雨水・汚水)	19.5	19.5	24.7	26.0	85.7	3	耐震性を有するブロック数/ポンプ場内ブロック数×100
(指標評価 平均値)						3	

具体的取組

	取組内容	R5年度 目標		前々年度	前年度	達成状況
		R5年度 実績				
2-①	下水道総合地震計画に基づく汚水管路の耐震化を実施します。	樋之上地区他において、耐震化工事を行います。		-	3	4
		樋之上地区他1箇所において、耐震化工事を行いました。				
2-②	下水道総合地震計画に基づく雨水ポンプ場の耐震化を実施します。	溝谷川ポンプ場(RC造・S造)2ブロックの耐震化工事を実施します。3ポンプ場(サダ・黒田・藤本川)の耐震診断(非線形解析)を実施します。		-	3	3
		溝谷川ポンプ場で建築物の耐震化工事を発注しましたが、2度の入札不調によりR6年度まで工期を順延しました。(R5年度末出来高:51%) サダ・黒田・藤本川ポンプ場等の耐震診断(非線形解析)は将来の機械設備の構成検討等に時間を要したためR6年度以降に実施することになりました。 耐震診断(線形解析)により犬田川ポンプ場の土木構造の安全性を確認しました。 R5年度末の累積実績で、77ブロック中20ブロックの耐震性能を確保しました。(実施率:26.0%) (R5年度目標:27.3%)				
(具体的取組達成状況 平均値)						3

今後の方向性

遅れが生じている事業もありますが、R10年度の目標に向けて取り組みを進めていきます。

安全・安心な市民生活の確保

3	浸水被害の軽減	施策評価	A
取り組みの方向性	<p>●計画降雨に対応する雨水整備を進めるとともに、近年の気候変動等に伴う降雨の集中化・激甚化を要因とした内水の氾濫による浸水被害からまちを守るため、計画降雨を超える集中豪雨や局所的な浸水に対して、地域の特性を踏まえた浸水対策や雨水流出抑制施設の設置などを進めます。</p>	<p>評価理由</p> <p>浸水被害の軽減の取組を着実に実施しているため、評価を「A」としました。</p>	

指標

指標名	R3年度末(基準)	前々年度実績値	前年度実績値	R5年度実績値	目標値(R10)	評価	説明
3-(1) 浸水地区の整備率 (%)	54.4	54.4	54.6	56.2	60.0	4	対策済地区数/全対策予定地区数×100
(指標評価 平均値)						4	

具体的取組

	取組内容	R5年度 目標	前々年度	前年度	達成状況
		R5年度 実績			
3-①	浸水対策地区の浸水対策を実施します。	R5年度の完成に向け楠葉排水区の工事及び楠葉野田地区の浸水対策工事に取り組みます。 ・下水道浸水被害軽減総合計画に基づく楠葉排水区の貯留施設が完成しました。 ・楠葉野田地区の浸水対策工事を実施しました。	-	4	4
3-②	雨水貯留施設の確保に取り組みます。	浸水被害軽減のため、法及び要綱に基づく指導や開発者への協力依頼により、貯留施設の確保を図ります。 特定都市河川浸水被害対策法に基づく開発者への指導により、150㎡の貯留施設を確保しました。また、その他の開発者への指導により、4,169㎡の貯留施設を確保しました。	-	4	4
(具体的取組達成状況 平均値)					4

今後の方向性

今後も引き続き取り組んでいきます。

水環境の保全

4	環境負荷の低減	施策評価	A
取り組みの方向性	<p>●本市の下水道は整備当初から汚水の処理と雨水の排除というそれぞれの目的に沿った分流式を採用しており、今後も、合流式よりも環境にやさしい分流式下水道により整備を行います。</p>	<p>評価理由</p> <p>着実に分流式下水道の整備を進めているため、評価を「A」としました。</p>	

指標

指標名	R3年度末(基準)	前々年度実績値	前年度実績値	R5年度実績値	目標値(R10)	評価	説明
4-(1) 下水道処理人口普及率 (%)	97.5	97.5	97.6	97.8	97.8	4	処理人口/行政人口×100
(指標評価 平均値)						4	

具体的取組

	取組内容	R5年度 目標		前々年度	前年度	達成状況
		R5年度 実績				
4-①	分流式の下水道整備を進めます。	甲斐田東町地区他において、約450mの公共下水道整備工事を行います。 甲斐田東町地区他において、446.3mの污水管敷設工事を行い、公共下水道への接続が可能となりました。		-	3	4
(具体的取組達成状況 平均値)						4

今後の方向性

<p>今後も引き続き取り組んでいきます。</p>

水環境の保全

5	適正処理の推進	施策評価	A
取り組みの方向性	<p>●生活排水の適正処理を推進するため、水洗化義務期限内の水洗化に向けて取り組むとともに、期限を超過した家屋に対しては下水道の使用に向けた指導勧告を進めます。</p>	<p>評価理由 水洗化に向けた取組を実施しているため、評価を「A」としました。</p>	

指標

指標名	R3年度末(基準)	前々年度実績値	前年度実績値	R5年度実績値	目標値(R10)	評価	説明
5-(1) 水洗化率 (%)	97.5	97.5	97.7	97.8	98.0	4	水洗化人口/処理人口×100

(指標評価 平均値)

4

具体的取組

	取組内容	R5年度 目標	前々年度	前年度	達成状況
		R5年度 実績			
5-①	水洗化率の向上に取り組めます。	<p>水洗化（改造）義務期限の3年を超えた未水洗家屋の実態調査、指導勧告を行います。また、供用開始後3年以内の家屋所有者に対しても、法に定められた義務期限内の水洗化工事を促進するため、補助・融資あっせん制度を説明した通知文書を送付します。</p> <p>義務期限を超えた未水洗家屋のうち、476戸について戸別訪問のうえ水洗化指導を行い、2度にわたる勧告文書を送付しました。その結果、47戸の家屋で水洗化されました。また、供用開始後3年以内の未水洗家屋所有者に対しては、補助金・融資あっせん制度を説明した文書の送付など、義務期限内の水洗化に向けて積極的に取組みを進めました。</p>	-	4	4
(具体的取組達成状況 平均値)					4

今後の方向性

今後も引き続き取り組んでいきます。

快適な生活環境の創造

6	汚水整備	施策評価	A
取り組みの方向性	<p>●住居系地域の汚水整備は概成しましたが、引き続き市内に点在する未整備地区について汚水の整備を進めていくことにより、公衆衛生を向上させ、快適な生活環境を創造します。</p>		<p>評価理由</p> <p>着実に分流式下水道の整備を進めているため、評価を「A」としました。</p>

指標

指標名	R3年度末 (基準)	前々年度 実績値	前年度 実績値	R5年度 実績値	目標値 (R10)	評価	説明
6-(1) 下水道整備人口普及率 (%)	97.5	97.5	97.6	97.8	97.8	4	整備人口／行政人口×100
(指標評価 平均値)						4	

具体的取組

	取組内容	R5年度 目標	前々年度	前年度	達成状況
		R5年度 実績			
6-①	分流式の下水道整備を進めます。	甲斐田東町地区他において、約450mの公共下水道整備工事を行います。	-	3	4
		甲斐田東町地区他において、446.3mの汚水管敷設工事を行い、公共下水道への接続が可能となりました。			
(具体的取組達成状況 平均値)					4

今後の方向性

今後も引き続き取り組んでいきます。

7	雨水整備	施策評価	A
取り組みの方向性	<p>●人命や財産を守り、交通などの都市機能を確保するため、計画降雨に対応する雨水整備を進め、安心して生活できる環境を創造します。</p>	<p>評価理由</p> <p>計画降雨に対応する雨水整備を着実に進めているため、評価を「A」としました。</p>	

指標

指標名	R3年度末 (基準)	前々年度 実績値	前年度 実績値	R5年度 実績値	目標値 (R10)	評価	説明
7-(1) 主要な幹線管渠の整備率 (%)	46.3	46.3	46.3	46.3	46.9	3	整備延長/計画延長×100
						(指標評価 平均値)	3

具体的取組

	取組内容	R5年度		前々年度	前年度	達成状況	
		目標	実績				
7-①	下水道計画に基づく雨水整備を進めます。	繰り越ししている藤阪地区の実施設計に取り組みます。		-	3	4	
		藤阪地区の実施設計に取り組みました。					
						(具体的取組達成状況 平均値)	4

今後の方向性

<p>耐震化事業・老朽化対策事業を優先したため、当初予定より遅れが生じていますが、着実に進めるよう取り組みます。</p>
--

下水道事業を持続するための基盤づくり

8	財政基盤の強化	施策評価	A
取り組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> ●下水道事業を効率的かつ継続的に提供するため、将来予測に基づいた投資計画や財政計画を適切にマネジメントすることで、経営の健全化と経営基盤の強化に取り組みます。 ●将来の使用水量の減少を見据えた使用料体系を実現し、健全かつ持続可能な事業運営を行うため、総括原価に基づく使用料制度の構築に向けた見直しを定期的実施します。 ●下水道サービスの提供にあたっては、社会環境の変化により多様化するお客さまニーズを的確に把握するとともに、サービス提供コストが下水道使用料に与える影響を考慮し、判断していきます。 ●汚水事業の新規整備にあたっては、事業効果を含めて慎重に判断しながら実施します。 ●下水処理水の再利用については、事業手法や費用対効果も含めて検討し、事業のあり方を見直します。 	<p>評価理由</p> <p>企業債発行の抑制や経営戦略の中間見直しを行うなど、財政基盤の強化に向け順調に取り組みを進めているため、評価を「A」としました。</p>	

指標

指標名	R3年度末(基準)	前々年度実績値	前年度実績値	R5年度実績値	目標値(R10)	評価	説明
8-(1) 企業債残高対使用料収益比率(%)	587.4	587.4	538.1	491.8	452.4	4	企業債残高(公的負担分除く) / 下水道使用料 × 100
(指標評価 平均値)						4	

具体的取組

	取組内容	R5年度 目標	前々年度	前年度	達成状況												
		R5年度 実績															
8-①	企業債発行額を抑制します。	事業に対する補助金等の財源確保に努め、企業債発行を抑制します。 (R5年度指標計画値：590.8%) ・汚水事業及び雨水事業の整備・改良に対し、国費・工事負担金等財源を最大限確保し、企業債の発行を抑制しました。また、雨水事業の実施にあたっては、一般会計債である緊急自然災害防止対策事業債437百万円を活用し、一般会計線出金の財源となる交付税の確保にも取組みました。 <table style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td></td> <td>企業債発行額 /</td> <td>事業費</td> <td>充当率</td> </tr> <tr> <td>R5年度</td> <td>686百万円 /</td> <td>1,635百万円</td> <td>42.0%</td> </tr> <tr> <td>R4年度</td> <td>766百万円 /</td> <td>1,874百万円</td> <td>40.8%</td> </tr> </table> その結果、R5年度指標計画値590.8%を下回り、491.8%でした。		企業債発行額 /	事業費	充当率	R5年度	686百万円 /	1,635百万円	42.0%	R4年度	766百万円 /	1,874百万円	40.8%	-	4	4
	企業債発行額 /	事業費	充当率														
R5年度	686百万円 /	1,635百万円	42.0%														
R4年度	766百万円 /	1,874百万円	40.8%														

8-②	国等の補助制度の活用に取り組みます。	事業実施において社会資本整備総合交付金や防災・安全交付金等の補助制度を活用します。 汚水整備、浸水対策、地震対策、ストックマネジメントの各事業に国の交付金（約4.7億円）を活用しました。	-	4	4												
8-③	R6年度の総括原価の算定に向けて社会経済情勢を踏まえた収支計画の策定準備に取り組みます。	R4年度実績及び物価高騰等の影響を踏まえ、収支計画の見直しを行います。 R6年度の総括原価の算定に向け、下水道事業における総括原価方式の調査、研究を行います。 ・現在の料金による状況を確認しました。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>使用料単価</th> <th>汚水処理原価</th> <th>単年度収支</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R5年度</td> <td>149.04円</td> <td>151.15円</td> <td>1,505百万円</td> </tr> <tr> <td>R4年度</td> <td>148.90円</td> <td>152.02円</td> <td>1,564百万円</td> </tr> </tbody> </table> ・R5年度実績及び物価高騰等の影響をR6年度予算に反映しました。 ・R6年度の総括原価の算定に向け、下水道事業経営戦略の中間見直しを行いました。		使用料単価	汚水処理原価	単年度収支	R5年度	149.04円	151.15円	1,505百万円	R4年度	148.90円	152.02円	1,564百万円	-	4	4
	使用料単価	汚水処理原価	単年度収支														
R5年度	149.04円	151.15円	1,505百万円														
R4年度	148.90円	152.02円	1,564百万円														
8-④	下水道使用料改定の必要性の検討に向けた有収水量や使用量収益の動向を把握します。	調定水量や調定金額について、推移モニタリングを実施します。 各月の調定水量や調定金額について、前年同月との比較などモニタリングを実施しました。月によってばらつきはあるものの、調定水量、調定金額ともに前年比で減少する結果となりました。	-	4	4												
8-⑤	下水道使用料改定の必要性について検討していきます。	下水道使用料改定の必要性について検討します。 下水道使用料の改正の必要性について、現行制度による経費回収状況の把握を行いました。	-	4	4												
8-⑥	汚水の新規整備については、新たな技術も検証し、事業効果を含めた慎重な検討をしながら取り組みます。	事業効果を含めた検討を行い、甲斐田東町地区他において、公共下水道整備工事を行います。 地元からの要望状況や事業効果を含めた検討を行い、甲斐田東町地区他の公共下水道整備工事を行いました。	-	3	4												
(具体的取組達成状況 平均値)					4												

今後の方向性

今後も引き続き取り組んでいきます。

下水道事業を持続するための基盤づくり

9	運営基盤の強化	施策評価	A
取り組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> ●維持管理の時代に適した人（人材）・モノ（施設）・カネ（財源）が一体となったアセットマネジメントや、適切な被害想定にもとづく防災・減災を推進するという考え方の下、ハード・ソフト対策を組み合わせた非常時のクライシスマネジメントなどを確立していきます。 ●今までの考え方や取り組みにとらわれない業務の再編や執行の効率化等、検証や見直しによる経費の抑制を行い、持続可能な事業運営に取り組みます。 ●人材育成や技術継承はもとより、組織力強化のために業務に精通する専門性の高い職員を適切に配置できる体制を継続します。 ●公民連携、広域化・共同化などの新たな手法に取り組みます。 	<p>評価理由</p> <p>運営基盤の強化に向け、各種施策の取り組みが実施されているため、評価を「A」としました。</p>	

指標

指標名	R3年度末(基準)	前々年度実績値	前年度実績値	R5年度実績値	目標値(R10)	評価	説明
—	—	—	—	—	—	—	—

具体的取組

	取組内容	R5年度 目標	前々年度	前年度	達成状況
		R5年度 実績			
9-①	戦略的かつ円滑な事業運営の推進を図るため、必要に応じて組織の再編を行います。	公営企業として、より迅速で戦略的に経営できる執行体制の構築をめざします。 公営企業として、より効率的で機能的な業務体制の確立を図るため、上下水道局の機構改革（「室」の廃止、部の統一、課の改称・改編）を実施しました。	-	4	4
9-②	経営戦略の見直しの検討を行います。	経営戦略の中間見直しを実施します。 令和6年3月に経営戦略の中間見直しを行いました。	-	4	4
9-③	各種下水道計画の見直しを検討します。	下水道事業経営戦略の中間見直しに合わせ下水道整備基本計画の中間見直し、下水道ストックマネジメント計画、下水道総合地震対策計画を見直します。 下水道整備基本計画の中間見直しを行い、枚方市下水道ストックマネジメント計画（その2）、枚方市下水道総合地震対策計画（その3）を策定しました。	-	4	4

9-④	災害対策や危機事象に迅速に対応できる体制を確立します。	<ul style="list-style-type: none"> ・危機事象に対して、迅速かつ適切な対応を図るため、局の災害対策本部設置マニュアルを作成し、それに基づく設営訓練を行います。 ・危機事象に対する初動マニュアルを作成します。 ・災害に備えたシステム等の研修を実施します。 ・市民等からの土のう要請に対し、迅速な配付を行います。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・災害に備えたシステム等の研修（計6回）を実施しました。 ・大規模災害等の危機事象に備えて、日頃からデジタルMCA無線（携帯局28台）の活用を図りました。 ・危機事象に対して、迅速かつ適切な対応を図るため、局の災害対策本部設置マニュアルを作成し、それに基づく設営訓練を実施しました。 ・危機事象に対する災害時初動マニュアルを作成し、本マニュアルの携帯版を局全職員に配付するとともに、全課に各部署の役割を記載したチェックリストを掲示しました。また、市長部局と連携した図上訓練において、初動マニュアルの活用を図りました。 ・市民等からの土のう要請14件に対し、238袋の配付を行いました。 	-	4	4
9-⑤	災害用備蓄品の適切な管理を行います。	<p>大雨等の災害事象に備えるため、土のうの適正な保管数を維持するため、土のう作成を行います。</p> <hr/> <p>土のうの適正な保管数に向けて、1,200個の土のう作成を行いました。</p>	-	4	4
9-⑥	近隣市や事業者との応援協力体制を確立します。	<p>災害協定の締結拡充に向けて、関係機関と協議・検討を行います。</p> <hr/> <p>災害協定の締結拡充に向けて、北河内7市広域化・共同化検討会において、他市の状況確認を行い、今後の協定締結に向け、協議・検討を行いました。</p>	-	4	4
9-⑦	適正に予算を編成するとともに執行を管理します。	<p>社会情勢等を踏まえ、適正に予算を編成するとともに執行を管理します。</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・人口減少をはじめ、節水意識の浸透や節水機器の普及などライフスタイルの変化などにより水需要の減少傾向が続く中、事業の必要性を十分に検討するとともに、これまでの継続事業についてもそのあり方を見直しました。 ①維持管理等の経常的経費の精査や財源の確保 近い将来に更新を行う予定の施設の修繕にあたっては、更新までの間の機能維持に必要な最低限の修繕を行うこととしました。また、施設の更新にあたっては、国庫補助金の活用を前提とした事業実施の検討を行うこととするとともに、幅広い財源確保に努めました。 一方で、動力費等の高騰による影響が経営に大きな負担となっており、物価高騰を含め予算の編成を行いました。 ②採算性を重視した事業決定 新たな整備事業を決定するにあたっては、事業の目的や優先順位に加えて、その事業により発生する減価償却費や維持管理費と、得られる収入を比較した上で、事業実施を検討し、事業決定を行いました。 	-	4	4

9-⑧	下水道使用料等の債権の徴収強化を行います。	<p>納期限を経過した下水道使用料等について、電話催告、訪問徴収等を行うとともに、滞納状況に応じて弁護士名を記載した催告や滞納処分等の法的措置に取り組み、徴収率の向上に努めます。</p> <p>納期限を経過した下水道使用料等について、電話催告、訪問徴収等を行うとともに、滞納状況に応じて弁護士名を記載した催告や滞納処分等の法的措置に取り組み、徴収率の向上に努めました。 (R5年度実績99.62% (R6年5月末時点))</p>	-	4	4
9-⑨	保有資産の有効活用に取り組みます。	<p>広告掲載を募集している下水道マンホール蓋（市内全13箇所）のうち、応募のない残り8箇所で新規広告掲載を募集します。</p> <p>新規広告掲載1箇所の応募があり、R6年度中に広告掲載を行う予定です。また、広告掲載中である市内5箇所の下水道マンホール蓋は契約を継続しました。 (R5年度分広告料（5箇所）294,360円)</p>	-	3	3
9-⑩	雨水ポンプ場における運転、維持管理業務の民間委託拡充に向けた検証を行います。	<p>民間委託前と同様に運転、維持管理業務を行えるよう監督し、拡充に向け検証を行います。</p> <p>民間委託前と同様に降雨時の対応や日常の維持管理業務の実施状況を確認し、雨水ポンプ場の民間委託拡充に向け検証しました。</p>	-	4	4
9-⑪	人材育成や技術継承を行い、組織力の向上を図ります。	<p>・新たに上下水道局に配属された職員を対象に、上下水道局各課の業務を紹介する新入職員研修会を実施します。 ・職場環境の整備等を図るため、職員研修会を実施します。 ・職員の安全衛生意識の高揚を図るため、安全衛生研修会を実施します。</p> <p>・新たに上下水道局に配属された25名の職員を対象に、上下水道局各課の業務を紹介する新入職員研修会を6月29日に開催しました。 ・職員の安全衛生意識の高揚を図るため、2月20日に「健康寿命の延伸に向けた生活習慣病の予防について」安全衛生研修会を実施し、41人の参加がありました。</p>	-	4	4
9-⑫	公民連携の新たな手法の活用を検討します。	<p>枚方市の公民連携プラットフォームを活用して民間提案の募集を行います。</p> <p>公民連携プラットフォームでは新たな民間提案はありませんでしたが、国の支援を受けて下水道用地の有効活用を検討するなど、下水道事業における公民連携について情報収集や検討を行いました。</p>	-	4	3
(具体的取組達成状況 平均値)					4

今後の方向性

今後も引き続き取り組んでいきます。

下水道事業を持続するための基盤づくり

10	積極的な広報活動	施策評価	A
取り組みの方向性	●下水道に関する取り組みや経営状況について情報発信を行い、積極的な広報活動に取り組めます。	評価理由 下水道週間に合わせた情報発信など積極的な広報に努めたため、「A」評価としました。	

指標

指標名	R3年度末(基準)	前々年度実績値	前年度実績値	R5年度実績値	目標値(R10)	評価	説明
—	—	—	—	—	—	—	—

具体的取組

	取組内容	R5年度		前々年度	前年度	達成状況
		目標	実績			
10-①	下水道事業全般の情報発信（広報ひらかた、ホームページ、SNS、出前講座等）を実施します。	<ul style="list-style-type: none"> 下水道事業について、市民に広く周知するため、「下水道週間」に合わせ、情報発信を行います。また、マンホールカードの配布を行います。 小中学校や市内の団体に対して、出前講座を実施します。 	<ul style="list-style-type: none"> 下水道事業について、市民に広く周知するため、「下水道週間」に合わせ、「9月10日は下水道の日」「大雨時は汚水排水量の削減を」「下水道への接続のご協力を」について、情報発信を行いました。また、楽しみながら下水道事業の理解・関心を深めるため、マンホールカードを市民等に配布しました。 小学校と市内の団体に対して、出前講座2件を実施しました。 	-	4	4
(具体的取組達成状況 平均値)						4

今後の方向性

今後も引き続き取り組んでいきます。

下水道事業を持続するための基盤づくり

1 1	環境対策と社会目標の実現	施策評価	A
取り組みの方向性	<p>●「SDGs」、「Society5.0」、「2050年二酸化炭素排出量実質ゼロ宣言」などの社会目標の実現に向けて、下水道事業を通じて持続可能な社会をめざします。</p>	<p>評価理由</p> <p>各種オンライン化をすすめ「Society5.0」への取り組みをすすめました。下水道事業から発生するリサイクル可能資源については、積極的なリサイクルに努めました。エネルギー削減目標を一部達成できませんでしたが、水銀灯のLED化をすすめ、電気自動車を導入するなど、環境対策に努めているため、評価を「A」としました。</p>	

指標

指標名	R3年度末(基準)	前々年度実績値	前年度実績値	R5年度実績値	目標値(R10)	評価	説明
11-(1) 建設副産物リサイクル率(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	4	再生資源化施設搬出量/建設副産物発生量×100
(指標評価 平均値)						4	

具体的取組

	取組内容	R5年度 目標	前々年度	前年度	達成状況
		R5年度 実績			
11-①	建設副産物等の再生資源として有効利用します。	現場で発生する特定建設資材について、再資源化施設に搬出します。 工事現場でのアスファルトやコンクリートがらの発生量422tについて、有効利用のためリサイクル施設への搬出を行いました。	-	4	4
11-②	施設の修繕・更新時における環境負荷低減に取り組みます。	溝谷川ポンプ場の水銀灯をLED照明に取り換えます。 ・溝谷川ポンプ場の水銀灯をLED照明に取り換え中です。(R6年6月中に工事終了予定) ・工事で使用する建設機械については排出ガス対策型を使用しました。	-	4	4

11-③	施設及び公用車のエネルギー削減に取り組み、二酸化炭素排出量の削減に努めます。	<p>施設及び公用車のエネルギー使用量について、前年度を基準に1%削減を目標に掲げ、二酸化炭素排出量の削減に努めます。</p> <p>・電気使用量が目標値214,696kWhのところ210,096kWhで2.1%の削減を達成しました。 ・ガス使用量が目標値31,972㎡のところ29,179㎡で8.7%の削減を達成しました。 ・ガソリン使用量が目標値282.15Lのところ287Lで1.7%の増加となり未達成でした。 ・軽油使用量が目標値240.57Lのところ334Lで38.8%の増加となり未達成でした。</p>	-	3	3
11-④	下水道ビジョン2022に関する各課の計画目標・取り組み内容の実現による「SDGs」、「Society5.0」、「2050年二酸化炭素排出量実質ゼロ宣言」等を実現します。	<p>R5年度から運用を開始した下水道排水設備指定工事店の指定手続き等のオンライン利用者数増に向け、適時適切な周知を図ります。</p> <p>R5年度から運用を開始した市下水道排水設備指定工事店の指定手続き等のオンライン利用者数増に向け、通知文にオンライン申請の案内や、読取コードを記載するなど、オンライン申請にアクセスしやすい環境を整えました。その結果、更新手続きのオンライン申請の割合については、42%になりました。</p> <p>上下水道局の公用車の電動化に関する方針に基づき、公用車の電動車導入を進めます。</p> <p>「上下水道局の公用車の電動化に関する方針」に係る導入計画に基づき、R5年度は計画通り公用車2台の電動車化を達成しました。</p>	-	4	4
					4
(具体的取組達成状況 平均値)					4

今後の方向性

今後も引き続き取り組んでいきます。